英語における名詞と形容詞との修飾関係に関する一考察*

金澤　俊吾

(2010年９月27日受付，2010年12月13日受理)

A Note on the Modification Relations between Nouns and Adjectives in English

Shungo KANAZAWA

(Received: September 27. 2010, Accepted: December 13. 2010)

要　旨

英語には、形容詞が形式上、後続する名詞を修飾していながら、意味的には事象を修飾する形容詞がある。本論では、その中でも quick, hasty, hurried の３つの形容詞を取り上げて、事象名詞を修飾する場合と、普通名詞を修飾する場合における、修飾のメカニズムを明らかにすることを目標とする。そして、事象名詞の場合、普通名詞の場合、いずれの場合も [NP-V-a/an-A-N] から構成される統語形式から構成され、事象名詞の修飾のパタンから、普通名詞のパタンに意味拡張を経て、形成されるということを提案する。また、これら一連の形容詞が普通名詞を修飾する際、形式的には普通名詞を修飾していながら、意味的には事象を修飾するという、形式と意味のズレが引き起こされるため、それを補完するために、V のスロットを満たす動詞の語彙情報が重要な役割を果たすことを明らかにする。

キーワード：意味拡張、形容詞、事象名詞、普通名詞

Abstract

The purpose of this paper is to clarify the modification relations between adjectives such as *quick*, *hasty*, and *hurried* and nouns in English. These adjectives modify common nouns as well as event nouns. The adjectives in both of the cases can have a power of modifying the events denoted by the fixed syntactic string, [NP-V-a/an-A-N]. However, *hasty* and *hurried* can hardly modify event nouns, although they can easily modify common nouns. We will try to explain this difference in distribution not in terms of any ad-hoc features or models, but in terms of the semantic relations which hold among the elements of each subtype based on compositionality, and semantic extension.

Key Words: semantic extension, adjective, event noun, common noun

高知女子大学文化学部
Department of Cultural Studies, Kochi Women's University

1．はじめに

英語において、形容詞が、形式的に事象名詞を修飾し、意味的に事象全体を修飾する場合がある。例えば、(1)における quick は、事象名詞である drink を修飾し、酒を飲む事象の時間的推移を表す。[1)]

(1) After the panel discussion I had a **quick** *drink* with a young Irish director called Annabel Comyn...

Ben Barnes, *Plays and Controversies: Abbey Theatre Diaries 2000-2005*

興味深いことに、この種の形容詞は、(1)における事象名詞のみならず、(2)のように、形式上、普通名詞を修飾することもできる。

(2) Jim ran to the bar as fast as he could, then drank a **quick** *beer* and tried to relax.

Rm Secor, *The Death of an Agent*

(2)において、quick は、形式上、普通名詞 beer を修飾する位置に生起する。その際、意味的には、ビールの性質ではなく、Jim がビールを飲む動作を素早く行ったという事象の時間的推移の速さを表す。

先行研究において、安井他 (1976: 179) が、事象を修飾する形容詞について、次の例を挙げて説明している。

(3) a. He took a quick shower.
b. He wrote a hasty letter.

(4) a. He took a shower quickly.
b. He wrote a letter hastily.

安井他 (1976) によると、(3a-b)はそれぞれ、形容詞が名詞を修飾する形式を取りながら、意味上、動詞を修飾する。よって、(3a-b)は、(4a-b)とそれぞれ同義であると解釈される。

一見すると、この種の形容詞の修飾対象とされる名詞の分布は、同一の分布をなしているように思われる。しかしながら、実際のところ、quick と同様に時間的推移を表す形容詞である hasty, hurried にそれぞれ置き換えると、分布に違いがみられる。(5)を例に考えてみる。

(5) a. They settled in the armchairs, stretched out their legs, had a **hasty** *drink* ("just a quick one").

Heimito von Doderer, *The Demons*

b. ...and they all had a **hurried** *drink* standing up, which is no way to drink when you have a headache...

Jerome Weidman, *Too Early to Tell*

(5a)における hasty は、事象名詞 drink を修飾し、飲む動作の時間的推移の速さを示す。また、(5b)における hurried も同様に、they によって示される指示対象が、アルコールをさっと飲む状況を表す。しかし、quick とは対照的に、hasty, hurried が、それぞれ事象名詞を修飾するパタンは圧倒的に少なく、その数は1ないし数例にとどまる。

一方、 hasty, hurried は、普通名詞を修飾する場合、 quick の場合に比べて、普通名詞と共起し易く、用例数も圧倒的に多い。

(6) a. He counted down the money, drank a **hasty** *glass of wine*, ... Holme Lee, *Katherine's Trial*

b. She awoke early the next morning, drank a **hurried** cup of *instant coffee*, ...

Norman D. Davis, *Submaray*

先行研究における安井他 (1976) の指摘にあるように、仮に、これらの形容詞を意味上、動詞を修飾する要素であるとして一様に扱おうとするならば、修飾対象とされる名詞の分布も同一の広がりを持つと予測される。つまり、意味上、 hasty, hurried はいずれも、 quick と同様に、時間的推移を表す形容詞であるので、修飾対象とされる名詞の分布が同一の広がりを持つと予測される。しかし、実際に用例を調べてみると、 hasty, hurried は、事象名詞と共起しにくいのに対して、普通名詞とは共起し易いという分布の違いがみられる。この分布の違いは何に起因するのであろうか。

本論では、事象を修飾する英語の形容詞のうち、 quick, hasty, hurried を取り上げ、これら一連の形容詞が、事象名詞、普通名詞をそれぞれ修飾する際に、意味的関係に違いがみられることを明らかにする。とりわけ、 quick, hasty, hurried が、事象名詞を修飾する場合と、普通名詞を修飾する場合とでは、修飾関係に違いがみられ、その違いは、それぞれのパタンに生起する動詞の意味的分布にも影響を与えるということを提案する。また、普通名詞を修飾するパタンは、事象名詞を修飾するパタンから、意味拡張を経て、形成されているパタンであるということを提案する。本論の提案により、先の問いに対する説明を試みる。

第二節では、事象を修飾する形容詞が、事象名詞を修飾する場合と、普通名詞を修飾する場合の意味的関係について考察する。そして、それぞれのパタンにおいて、共起する動詞との意味的関係を明らかにする。第三節では、本論での提案に基づいて、(5)と(6)に挙げる分布において、なぜ、違いがみられるのかという問いに対して説明を与える。第四節では、本論のまとめと、今後の課題について述べる。

2．事象を修飾する形容詞の修飾のメカニズム

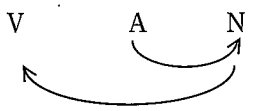
本節では、事象を修飾する形容詞のうち、 quick, hasty, hurried と、その修飾対象とされる名詞との修飾関係について考察する。まず始めに、これら 3 つの形容詞が、それぞれ修飾対象とする名詞との間にみられる共通性について概観する。

これらの形容詞は、修飾対象が、事象名詞、普通名詞にかかわらず、次の 2 点において、共通性がみられる。 1 つは、統語的配列が、 [NP-V-a/an-A-N] という固定されたパタンから構成されているという点である。もう 1 つは、quick, hasty, hurried が、事象の時間的推移を表す形容詞であるという点である。

本論では、これら形式的、意味的にそれぞれみられる共通性に着目することにより、基本的には一定の統語形式 [NP-V-a/an-A-N] から、事象名詞のパタンが形成され、意味拡張を経て、普通名詞のパタンが形成されると考える。

V, A, N のそれぞれのスロットを満たす要素間にみられる意味的関係の違いは、事象名詞のパタンと、普通名詞のパタンとでは、それぞれ異なる。また、形容詞の修飾対象とされる名詞の語彙的意味は、それぞれのパタンにおいて、共起する動詞を決定づけるという点において重要な役割を果たしている。

(7)



本論では、(7)に示すように、Aのスロットを満たす形容詞が、修飾対象とされる目的語名詞Nとの修飾関係を決定すると考える。その上で、目的語名詞Nのスロットを満たす名詞が、共起する動詞Vを決定すると考える。(7)と同様のモデルは、金澤(2010)において提案されている。金澤(2010)は、John smoked a sad cigarette. に代表される転移修飾表現において、目的語名詞 cigarette の意味的情報により、当該表現に smoke が生起することが決定づけられると述べている。

次に、Aのスロットを満たす形容詞である quick および hasty, hurried の語彙的意味について概観する。

(8) i. quick: done with speed; taking a short time　*OALD*[7]
　ii. hurried: done too quickly because you do not have enough time　*ibid.*
　iii. hasty: said, made or done very quickly, especially when this has bad results　*ibid.*

(8i)に挙げるように、quick は、短時間で何か物事を行うという意味を表し、時間的推移を表す最も基本的な形容詞である。また、(8ii)における hurried は、quick と同様に、動作が短時間で行われることを表す形容詞である。しかし、quick とは異なり、時間が十分にない事が原因となって、動作が素早く行われるという因果関係がみられる。さらに、(8iii)における hasty は、物事を行う際に短時間で行われ、その行為の結果として、悪い結果がもたらされる場合に用いられる形容詞である。こうして、hurried, hasty の語彙的意味の違いから、これら2つの形容詞が、quick よりも、修飾対象とする名詞にも多くの意味的制約が課せられると予測できる。

形容詞が名詞を修飾する際に、動作を修飾することに関わるということは、Langacker (1995) において指摘されている。Langacker (1995) によると、(9)のように、形容詞が名詞を修飾する場合、その表現と密接に関わる動作が喚起される。

(9) Ultimately, I believe that most if not all adjectival properties are best characterized with respect to some activity or process involving the entity ascribed the property: what varies is how specific and how salient that process is.　Langacker (1995: 52)

例えば、(10a)において solid が ice cream を、(10b)においては、hard が surface を、それぞれ修飾する。

(10) a. The ice cream is solid.
　b. hard surface

その際、(10a)では eat という動作が、(10b)では touch という動作がそれぞれ喚起される。同様の説明は、quick, hasty, hurried がそれぞれ、修飾対象とされる名詞を修飾する場合にも、共起する動詞を決定する場合にも当てはまる。

2.1. 事象名詞を修飾するパタン

本論の提案に基づいて、これら一連の形容詞と、事象名詞との修飾関係について考察する。(11)を用いて、quick が事象名詞を修飾するパタンについて考えてみよう。[2)]

(11) I had a **quick** *drink* and at ten minutes past 6, saying good-by to nobody...

Lady Bird Johnson, *A White House Diary*

(12) i. a quick drink

ii. had a quick drink

(12i)のように、quick は、事象名詞 drink を修飾する関係にある。また、drink は事象名詞であるので、共起する動詞がなくても、名詞句 a quick drink 単独で、「(アルコール類を) 飲む事象の時間的推移が速い」ということを表す。よって、(12ii)のように V のスロットを満たす動詞は、意味的に「軽い」動詞が選択されることになり、軽動詞 have が選択される。

Quick と同様に、hurried, hasty も、それぞれ事象名詞を修飾できる。(13)は、hurried が事象名詞 drink を修飾するパタンである。

(13) When we were talking, a man came in and had a **hurried** *drink* and passed out again.

Metropolitan Magazine

当該形容詞は、drink と修飾関係を結ぶ。また、drink は、事象名詞であるので、V のスロットは、軽動詞 have によって満たされる。その結果として、hurried は、we の指示対象がアルコールを飲む事象の時間的推移の速さを表す。

また、(14)のように、hasty が drink を修飾する際にも、quick, hasty と同様に説明される。

(14) (=(5a)) They settled in the armchairs, stretched out their legs, had a **hasty** *drink* ("just a quick one").

Hasty は、事象名詞 drink と修飾関係を結ぶ。そして、drink は、名詞自体で事象を表すので、名詞句 a hasty drink で「さっと飲む」と解釈できる。しかし、文を形成するためには、V のスロットを満たす必要があるので、軽動詞 have を入れることで、最終的に(14)が形成される。

2.2. 普通名詞を修飾するパタン

次に、quick, hasty, hurried が、普通名詞を修飾するパタンについてみる。本論での提案に基づき、普通名詞を修飾するパタンは、事象名詞のパタンから意味拡張を経て、形成されるパタンであると考える。また、事象名詞の場合と同様に、形容詞の修飾対象とされる名詞が、共起する動詞の分布を決定づけると考える。

事象名詞のパタンの場合と同様に、V のスロットに have が満たされていながら、N のスロットに普通名詞が生起する場合がある。この場合、V のスロットには、軽動詞 have から、意味拡張が進み、主動

詞 have が入っていることに気が付く。具体例として、(15)をみてみよう。[3)]

(15) Having a **quick** *cup of coffee* he realizes that both the boy and the new maid who serves him know.

Siglind Bruhn, *The Temptation of Paul Hindemith: Mathis der Maler as a Spiritual Testimony*

(15)における quick は、普通名詞 a cup of coffee を修飾しているにもかかわらず、意味的には「コーヒーを飲む」という事象の時間的推移の速さを表す。この点において、形式と意味との間にズレが生じていることが分かる。このズレを回避するためには、Ｖのスロットを満たす動詞が重要な役割を果たす。

(16) i. a quick cup of coffee

ii. had a quick cup of coffee

(16)に示すように、Ｖのスロットを、軽動詞 have を用いて満たそうとしても、事象を修飾するだけの意味情報は得られない。よって、drink と同義で用いられる主動詞 have をこのスロットに入れることで、quick が事象を修飾するだけの意味情報が与えられる。その結果、形式と意味とのズレが解消されて、最終的には(15)が容認される。

Quick と同様に、hurried, hasty もまた、主動詞 have と共起できる。

(17) a. ... are tired of surfing channels at home or visiting malls or having a **hurried** *coffee* in a cafe...

Rajendra Nargundkar, *Services Marketing 2E*

b. We had a **hasty** *cup of coffee* and a slice of toasted bread and started back to Ostrovo.

Ruth S. Farnam, *A Nation at Bay*

(17a)における hurried は、a cup of coffee と修飾関係を結び、その後、主動詞 have と共起する。そして、hurried は、「コーヒーをさっと飲んだ」と事象の時間的推移の速さを表す。(17b)における hasty も同様に、コーヒーを飲む事象の経過時間の速さを表す。

A quick cup of coffee は、主動詞 have だけでなく、(18)に示すように、動詞 drink と共起する場合もある。「飲む」動作は、a cup of coffee などの飲み物を表す名詞と最も結びつき易い、典型的な動作である。

(18) Dad drank a **quick** *cup of coffee* at the counter. Richard Peck, *Voices after Midnight: A Novel*

(19) i. a quick cup of coffee

ii. drink a quick cup of coffee

例えば、(18)にみられる修飾関係は、(19)のように図示される。まず始めに、(19i)のように、quick と a cup of coffee が修飾関係を結ぶ。この段階でも、quick は、コーヒーを飲む事象の時間的推移の速さを表

すことはできる。それでもなお、quick は、形式的には普通名詞を修飾していながら、意味的には事象を修飾するというズレが生じている。この形式と意味のズレを解消するために、(19ii)のように、名詞 coffee にとって最も典型的な動作である drink が選択される。

(20)に示すように hurried, hasty もまた、それぞれ drink と共起できる。

(20) a. I stop to drink a **hurried** *cup of tea* and bolt a hard-boiled egg...

Benjamin Burges Moore, *From Moscow to the Persian Gulf*

b. He went into the house, drank a **hasty** *cup of tea*, finished the packing of his single case...

Ellis Peters, *Flight of a Witch*

(20a)における hurried は、a cup of tea と修飾関係を結び、一杯のお茶を飲む事象の時間的推移の速さを表す。また、(20b)における hasty も、quick と同様、a cup of tea を修飾し、「彼がさっとお茶を一杯飲んだ」と解釈される。

次に、quick が、事象の時間的推移を表す最も基本的な形容詞であるため、共起する動詞の分布が最も広いことについてみる。(21)を例に考えてみよう。

(21) a. He would have been, but in the dining room while she sipped a **quick** *cup of coffee*.

Jennifer Blake, *Midnight Waltz*

b. He jumped out of bed, showered, shaved, swallowed a **quick** *cup of tea*, and ran out to the car.

Jane Cranwell-Ward, *Thriving on Stress*

c. Downing a **quick** cup of coffee and burning his taste buds in the process, he made the short drive.

Kimberly Van Meter, *An Imperfect Match*

(21a)において、少量ずつ飲む動作を表す sip が共起し、「コーヒーを素早くすする」と解釈される。また、(21b)のように、お茶を飲み込む動作を表す swallow も共起し、お茶を飲み込む際の速さを表す。さらに、(21c)には、素早く食べ物や飲み物を摂取する動作を表す down が共起し、quick は、その動作の速さをさらに強調するために用いられる。

Quick は、「飲む」動作を表す動詞だけでなく、(22)のように、飲み物を「手に取る」動作を表す動詞とも共起できる。

(22) a. We picked up a **quick** *cup of coffee* and boarded the plane. Myrna A. Ehlin, *Unpredictable Tragedy*

b. An hour later and twenty miles away, Thomas Galway grabbed a **quick** *cup of coffee* and a biscuit before shouldering his rifle. Jim Murphy, *The Long Road to Gettysburg*

c. ... she came back to her office to snatch a **quick** *cup of coffee* before tackling the dressings.

Gilzean, Elizabeth, *Children's Hospital*

(22a)における pick up の場合、quick は手に取る一回の動作が短時間で行われたことを表す。(22b)では、Thomas Galway が一杯のコーヒーとビスケットを手に取る様子を quick が修飾している。また、(22c)における snatch は「素早く手に取る」と訳される。このことからも分かるように、たとえ、「素早さ」が語

彙的意味に指定されている動詞であってもquickと共起できる。

以上、quickは語彙的性質上、事象の時間的推移の速さを表す最も基本的な形容詞であるので、意味的に事象を修飾する際に密接に関わる動詞の分布も最も広いことを明らかにしてきた。

次に、hurriedについてみていく。この形容詞も、普通名詞を修飾する場合、drinkだけではなく、「飲む」動作に付随する様態が指定される動詞とも共起できる。

(23) a. Ten minutes later I was swallowing a **hurried** *cup of coffee*, ...

George Augustus Sala, Edmund Hodgson Yates, *Temple Bar*

b. Tim, Doune and I gulp a **hurried** *cup of Chinese tea.*

Niema Ash, *Flight of the Wind Horse: A Journey into Tibet*

(23a)におけるhurriedは、一杯のコーヒーを飲み込むのに要する時間が短時間であることを表す。また、(23b)におけるhurriedは、中国茶を一気に流し込む動作が短時間で行われたことを表す。

Hurriedの場合も、quickと同様に、(24)のように、飲み物を「手に取る」動作を表す動詞とも共起できる。

(24) a. She grabbed a **hurried** *cup of coffee* and ran down to the section... Maggie Davis, *Rommel's Gold*

b. We had only a few minutes to snatch a **hurried** *cup of coffee*, ...

History of the Class of 1884, Hamilton College, 1884-1914...

c. In a sleeping daze we rose, scalded our fingers trying to make a **hurried** *cup of tea...*

Ken Tout, *By Tank: D to VE Days*

(24a)におけるhurriedは、grabと共起し、カップ一杯のコーヒーを掴む事象の速さを表す。また、(24b)におけるhurriedは、snatchと共起することで、「さっと掴む」動作が、時間がない状況の中で、短時間で行われることを表す。さらに、(24c)のように、hurriedは、makeとも共起でき、紅茶を入れるのに要する時間の短さを表す。

最後に、hastyについてみる。この形容詞は、drink類以外の動詞とも共起できるものの、その分布は、他の2つの形容詞の場合に較べて、極めて狭いことが分かる。

(25) a. We swallowed a **hasty** *cup of tea*, ran up the sails, and started off west again.

Erskine Childers, *The Riddle of the Sands*

b. Inward Bills was out at an A.B.C. shop snatching a **hasty** *cup of coffee...*

P. G. Wodehouse, *Psmith in the City*

(25a)のように、hastyは、「飲む」動作の様態が指定される動詞swallowと共起できる。また、当該形容詞は、(25b)のように、語彙的意味の中に速さが指定される動詞snatchとも共起し、一杯のコーヒーを手に取る時の速さを表す。

Quick, hurried, hastyが、形式的には普通名詞を修飾する場合、意味的には事象を修飾するという点において、形式と意味とのズレが生ずる現象であることをみてきた。そして、この形式と意味のズレを補

うために、Ｖのスロットを満たす動詞の意味情報が必要であることをみてきた。時間的推移の速さを表す基本的な形容詞 quick の場合、共起する動詞の分布が最も広く、「飲む」動作を表す動詞から、「手に取る動作」を表す動詞に至るまで、様々な様態を表す動詞と共起できる。また、hurried の場合も quick の場合と同様に、「飲む」動作を表す動詞や、「手に取る動作」を表す動詞とも共起できる。さらに、hasty の場合、共起できる動詞が、他の２つの形容詞に比べて少ないということを明らかにした。

このように、事象を修飾する形容詞の語彙的意味と、事象の修飾と関わる動詞の語彙的意味との間には、動詞の分布に関して、相関関係がみられることは明らかである。

３．説明

本論での提案に基づいて、先行研究における問いである、hasty, hurried はいずれも、quick と同様に、時間的推移を表す形容詞でありながら、事象名詞とは共起しにくいのに対して、普通名詞とは共起し易い理由について説明する。

これら２つのパタンにおける、形容詞の分布の違いは、要素間の意味的関係の違いに還元できる。とりわけ、形容詞の語彙的意味に指定されている時間的推移の指定の度合いの強さと、修飾対象とされる名詞、さらには、共起できる動詞との間に、それぞれ意味的な相関関係がみられることに気が付く。

Quick は、hasty, hurried に比べると、時間的推移を表す最も基本的な形容詞であるので、修飾対象とされる名詞の分布も広い。

(26)(=(1)) After the panel discussion I had a **quick** *drink with* a young Irish director called Annabel Comyn...

(26)のように quick が事象名詞を修飾する際、形式的には事象名詞を修飾し、さらに意味的にも事象を修飾できる。また、軽動詞 have が共起しても、形式と意味との間にズレが生じない。よって、quick は事象名詞を修飾し、このパタンが多くみられるということになる。

一方、(27)における hasty, hurried は、quick とは異なり、それぞれの語の語彙的意味に、時間的推移の速さと因果関係が指定されている。よって、これらの形容詞が事象名詞と修飾関係を結ぶ場合、事象名詞の語彙情報だけでは事象を修飾できず、共起する動詞の語彙情報も必要とされる。

(27)((=5)) a. They settled in the armchairs, stretched out their legs, had a **hasty** *drink* ("just a quick one").
b. ...and they all had a **hurried** *drink* standing up, which is no way to drink when you have a headache...

(27)のように、軽動詞 have が共起しても、意味的に「軽い」ので、hasty, hurried が事象を修飾するまでには至らない。その結果、これら２つの形容詞は、事象名詞を修飾しづらく、事象名詞を修飾するパタンには現れにくいと説明される。

また、これら３つの形容詞が普通名詞を修飾する場合、形式的には、物体を表す名詞を修飾していながら、意味的には事象を修飾するという、形式と意味との間にズレが生ずる。この形式と意味とのズレを解消するために、修飾対象とされる名詞は、動詞が共起することを必須とし、当該動詞の語彙的意味が重要な役割を果たすことになる。

(28)において、quickは、形式的には、普通名詞beerを修飾していながら、意味的には「飲む」という事象を修飾する。

(28)((=2)) Jim ran to the bar as fast as he could, then drank a **quick** *beer* and tried to relax.

この例において、beerと最も結びつきの強い動詞である「飲む」動作を表すdrinkが選択される。これにより、形式と意味とのズレを補う事ができ、quickが事象を修飾する解釈が与えられる。

また、hasty, hurriedは、語彙的に時間的推移の速さに関して、さらに意味的な指定がなされる形容詞である。そのため、quickと比べて、これらの形容詞が普通名詞を修飾する際、形式と意味とのズレがさらに大きくなる。それに伴い、quickに比べて、共起する動詞の語彙情報が、より一層、重要な役割を果たすことになる。実際のところ、(29a-b)において、それぞれ動詞drinkが生起することで、hasty, hurriedは、それぞれ事象を修飾できるようになる。

(29)((=6)) a. He counted down the money, drank a **hasty** *glass of wine*, ...
b. She awoke early the next morning, drank a **hurried** cup of *instant coffee*, ...

本節では、hasty, hurriedの生起に関して、事象名詞のパタンと普通名詞のパタンとの間に見られる分布の違いは、これら2つの形容詞の語彙的意味に起因することを明らかにした。

事象名詞を修飾する場合、hasty, hurriedは事象名詞のパタンには生起しにくい。それは、事象名詞が軽動詞と共起することを求めるため、当該形容詞が修飾できる意味情報が不足するからである。一方、普通名詞を修飾する場合、形容詞は、形式的には普通名詞を修飾しながら、意味的には、事象を修飾するという形式と意味のズレを引き起こす。それを補うために、典型的には、修飾対象とされる名詞と最も結びつきの強い動詞が共起する。この動詞の語彙情報により、hasty, hurriedの様態の指定を満たすことができるので、普通名詞のパタンには生起し易いと説明される。

4．おわりに

本論では、英語における形容詞quick, hasty, hurriedを取り上げ、これらの形容詞が事象名詞を修飾する場合と、普通名詞を修飾する場合における、修飾のメカニズムを明らかにしてきた。そして、事象名詞の場合、普通名詞の場合、どちらも[NP-V-a/an-A-N]から構成される一定の統語形式から構成され、普通名詞を修飾するパタンは、事象名詞を修飾するパタンから意味拡張を経て、形成されることを提案した。また、これら一連の形容詞が普通名詞を修飾する場合、形式的には普通名詞を修飾していながら意味的には事象を修飾するという、形式と意味のズレがみられることを指摘した。さらに、このズレを解消するために、Vのスロットを満たす動詞の語彙情報が重要な役割を果たすということを明らかにした。本論の提案に基づき、hasty, hurriedは、事象名詞を修飾するパタンよりも、修飾対象が普通名詞を修飾するパタンの頻度が高い理由を明らかにした。

最後に今後の課題について述べる。quick, hasty, hurriedがそれぞれ普通名詞を修飾する際、当該形容詞の語彙的意味の違いによって、形容詞と名詞から成る名詞句の分布にも違いがみられることに気が付く。

(30)のように、quick, hurried, hastyは、それぞれ普通名詞を修飾するパタンをとりながら前置詞と共起する場合もある。

(30) a. {over/for...} a **quick** *cup of coffee*
b. {over/for...} a **hurried** *cup of coffee*
c. {over/for...} a **hasty** *cup of coffee*

用例を調べてみると、(30a)のパタンが最も多く、次いで(30b)のパタン、(30c)のパタンと続く。この頻度の違いは、形容詞の語彙的性質と密接に関係している。つまり、quick は、時間的推移に関して最も基本的な形容詞であるので、修飾対象とされる普通名詞の分布も最も広い。そのため、(30a)のように、当該形容詞が、普通名詞を修飾していながら、名詞句単独で事象を修飾する解釈が得られ易くなり、前置詞とも共起できるようになる。

また、(30b)における hurried は、「時間が十分にない事が原因で、動作が行われるという」意味を表す。そのため、hurried が、事象を修飾するためには、修飾対象とする名詞だけでは、意味情報が足りず、共起する動詞から、意味情報を補う必要がある。よって、動詞を伴わない、前置詞と共起するパタンには現れにくい。

さらに、(30c)における hasty は、「速さと、その結果として、悪い結果がもたらされる」いう意味を表す。そのため、quick に較べて、語彙的意味の指定が強いので、事象を修飾するためには、修飾できるだけの語彙情報を、動詞から補う必要が出てくる。その結果、a hasty cup of coffee が単独で用いられるパタンは、極めて少ない。実際のところ、動詞を伴うパタンしか見られない。

注

* 本研究の一部は、平成22年度文部科学省科学研究費補助金（若手研究(B)）「英語における事象を修飾する形容詞の意味的特徴について」(研究課題番号 22720195　研究代表者 金澤俊吾）の助成を受けてなされている。

1) 先行研究では、quick が対応する副詞 quickly と同義であるとして扱われる分析がある。例えば、Swan (2005: 26) は、(i)における quick は、quickly と同義に扱っている。

(i) I'll get back as quick(ly) as I can.

本論では、形容詞 quick と副詞 quickly とでは、基本的に意味機能が違うということを前提として議論を進める。特に、quick は事象全体を修飾するのに対して、quickly は、動作の様態を表すという点において、それぞれ異なる。

認知言語学の立場から、同様の指摘が山梨 (2009) においてもなされている。山梨 (2009: 84-85) は、動詞と副詞の組み合わせによって表される場合と、名詞、形容詞の組み合わせによって表される場合とでは、事態の捉え方に違いがあることを指摘している。

(ii) a. It frosted heavily last night.
b. There was a heavy last night.

山梨 (2009) の説明に従うと、(iia)によって表されている事態は、時間軸に沿った連続的でダイナミックなプロセスとして認知される。一方、(iib)によって表される事態は、プロセスの時間的な側面を捨象し、モノ的に認知していると説明される。この認知パタンの違いによって説明されている。

[2] 本論で扱う have a drink に代表される軽動詞を伴う表現に関しては、Wierzbicka (1982) を参照のこと。Wierzbicka (1982) によると、(i)のように、動詞 drink とは異なり、have a drink は目的語を取ることができないことを指摘している。

(i) a. John drank a glass of water.
　　b. *John had a drink of a glass of water.

この違いを、Wierzbicka (1982) は、動詞の語彙的性質に求めて説明している。確かに、実際の用例を調べてみると、have a drink が a glass of を伴う目的語を取る用例は存在しない。しかしながら、have a drink が飲み物を表す名詞を目的語としてとる用例が存在する。

(ii) After that I had a drink of water and a few biscuits, ...

Herbert George Wells, *The Short Stories of H. G. Wells*

この点については、今後の研究課題としたい。

[3] Huddleston and Pullum (2002) は、転移修飾語に関する記述の中で、転移修飾語の中でも、典型性を示す表現と周辺的な表現があることを指摘している。例えば、a quiet cup of tea は、典型性を示す表現であるのに対して、a discreet cigarette は、周辺的な表現として扱われている。実際に、用例を検索してみると、形容詞を伴う a cup of のパタンが、多く存在することが分かる。なぜこの種の分布の違いがみられるのか、a cup of と共起する形容詞にはどのような意味的特徴がみられるのかについては、さらに今後、詳細に検討する必要がある。

参考文献

Huddleston, Rodney and Pullum Geoffrey K. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, The Cambridge University Press, Cambridge.

金澤俊吾 (2010)「なぜ I sat in the bath tub, soaping a meditative foot. は転移修飾表現として解釈できるのか」, *JELS 27: Papers from the Twenty-Seventh Conference of the English Linguistic Society of Japan*,81-90, 日本英語学会.

Langacker, Ronald W. (1995) "Raising and Transparency," *Language* 71, 1-62.

Swan, Michael (2005) *Practical English Usage*, Third Edition, The Oxford University Press, Oxford.

Wierzbicka, Anna (1982) "Why Can You *Have a Drink* When You Can't **Have an Eat* ?," *Language* 58, 753-799.

山梨正明 (2009)『認知構文論－文法のゲシュタルト性』, 研究社, 東京.

安井稔, 秋山怜, 中村捷 (1976)『形容詞』(現代の英文法 7), 研究社, 東京.

[辞書]

OALD[7]: *Oxford Advanced Learner's Dictionary 7th Edition* (2005) The Oxford University Press, Oxford.